

2024年9月30日 全7頁

Indicators Update

2024年8月鉱工業生産

台風による工場稼働停止の影響もあり自動車工業などが低下

経済調査部 研究員 石川 清香

[要約]

- 2024年8月の生産指数は前月比▲3.3%と、コンセンサス（同▲0.5%、Bloomberg 調査）を下回り2カ月ぶりに低下した。8月下旬に台風の影響で自動車メーカーなどの工場の稼働が停止された影響などが表れた。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、緩やかに上昇するとみている。自動車の生産体制の正常化で、受注残に対応するための挽回生産が見込まれる。また、シリコンサイクル（世界の半導体市場に見られる循環）の回復で、半導体関連財の増産も押し上げ要因となる。ただし、日本で輸出管理規制が強化されれば、中国での半導体製造装置などの販売額が落ち込み、日本の生産指数が下押しされるリスクには注意が必要だ。
- 2024年10月7日に公表予定の8月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲4.0ptの105.3、一致CIが同▲4.1ptの113.1と予想する。この予測値に基づくと、8月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2024年								8月	9月	10月
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月				
鉱工業生産	▲6.7	▲0.6	+4.4	▲0.9	+3.6	▲4.2	+3.1	▲3.3			
コンセンサス								▲0.5			
DIR予想								▲1.2			
生産予測調査									+2.0	+6.1	
補正值(最頻値)									+0.3		
出荷	▲7.5	▲0.7	+4.7	▲0.4	+3.9	▲4.7	+2.7	▲4.0			
在庫	▲1.7	+0.6	+1.0	▲0.2	+0.9	▲0.7	+0.4	▲0.6			
在庫率	+2.6	▲5.6	+7.6	▲0.7	▲1.2	+1.7	▲2.4	+5.2			

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】台風による工場稼働停止の影響もあり自動車工業などが低下

2024年8月の生産指数は前月比▲3.3%と、コンセンサス(同▲0.5%、Bloomberg調査)を下回り2カ月ぶりに低下した。8月下旬に台風の影響で自動車メーカーなどの工場の稼働が停止された影響などが表れた。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

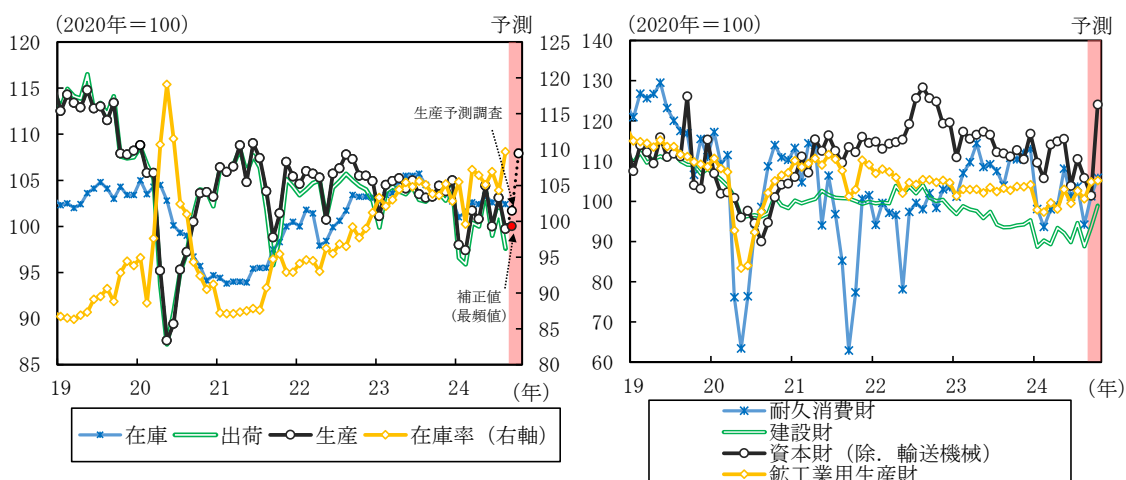
生産指数を業種別に見ると、15業種中12業種が前月から低下した。自動車工業(前月比▲10.6%)では、普通乗用車(同▲16.2%)や駆動伝導・操縦装置部品(同▲7.9%)などが減産となった。8月下旬に台風の影響で自動車メーカー各社が数日間にわたり工場の稼働を停止していた影響が大きかった。また、電気・情報通信機械工業(同▲6.2%)では、大型案件の影響で前月に大幅に増加したレーダ装置(同▲92.3%)が反動で減少し、指数を押し下げた。生産用機械工業(同▲4.6%)も低下した。半導体製造装置(同▲18.7%)が減産となったが、前月からの反動による影響が大きいとみられる。他方で、輸送用機械工業(除.自動車工業)(同+6.8%)では航空機用発動機部品(同+8.7%)などが、電子部品・デバイス工業(同+2.2%)ではモス型IC(メモリ)(同+25.6%)やモス型IC(ロジック)(同+9.2%)などが増産となり、指数を押し上げた。モス型IC(メモリ)は現行基準で遡れる2018年1月以来の最高水準に達するなど、シリコンサイクル(世界の半導体市況に見られる循環)の回復を背景に、半導体関連財の需要は堅調だ。

財別では、生産財(前月比▲1.9%)、耐久消費財(同▲9.2%)、資本財(除.輸送機械)(同▲4.3%)、建設財(同▲6.1%)、非耐久消費財(同▲0.1%)のすべてが低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月ぶりに低下

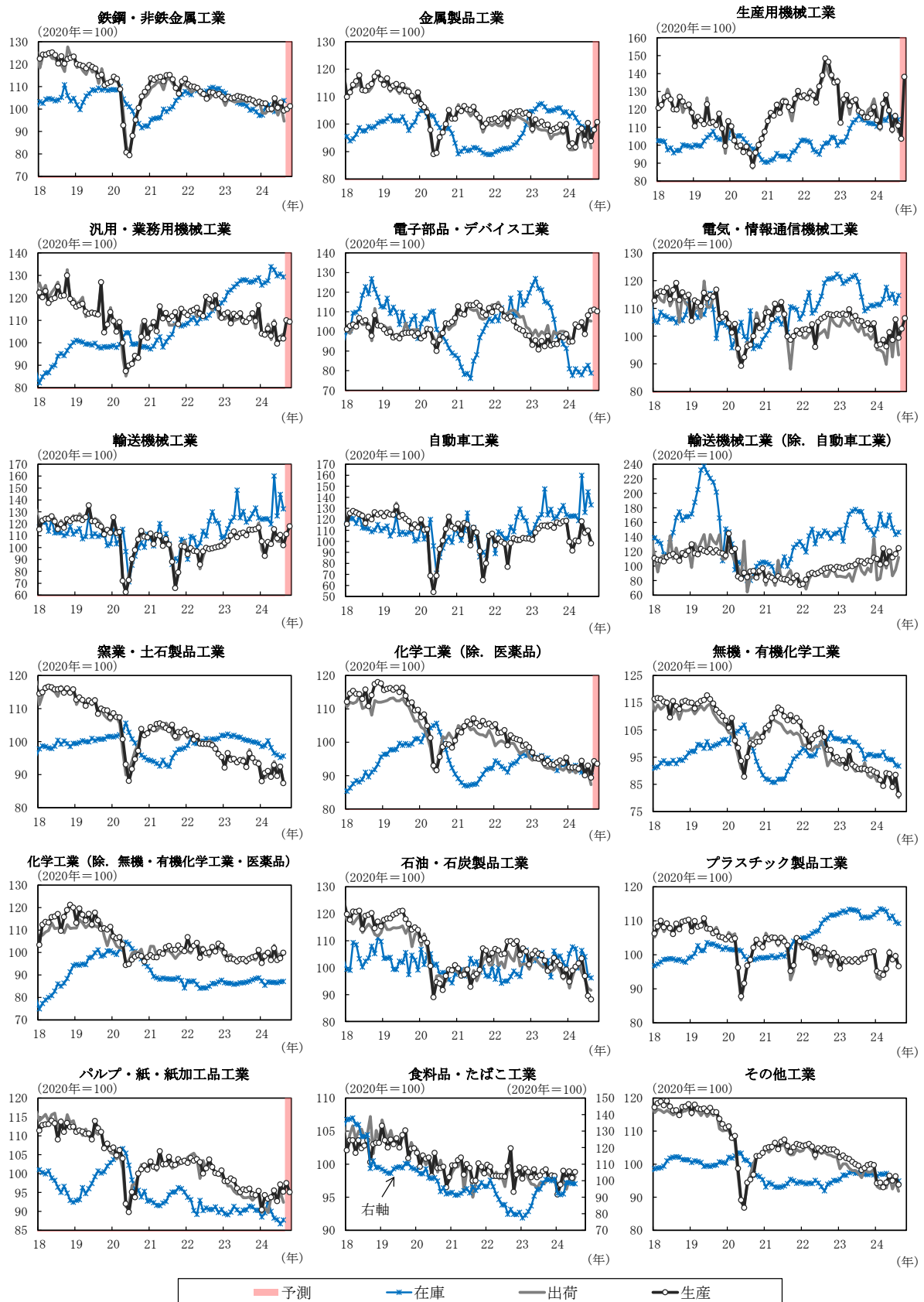
8月の出荷指数は前月比▲4.0%と2カ月ぶりに低下した。業種別では、15業種中12業種が低下した。自動車工業(同▲6.6%)では台風の影響が表れたほか、電気・情報通信機械工業(同▲9.7%)では、前述したレーダ装置(同▲92.6%)が前月からの反動で減少した。財別では、生産財、資本財(除.輸送機械)、耐久消費財、建設財、非耐久消費財のすべてが低下した。在庫指数は同▲0.6%、在庫率指数は同+5.2%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫(左)と財別の生産(右)



(注) 生産指数の予測値(赤色)は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャド一部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は緩やかに上昇

先行きの生産指数は、緩やかに上昇するとみている。自動車の生産体制が正常化する中で、受注残に対応するための挽回生産が見込まれる。また、シリコンサイクルの回復で、半導体関連財の増産も押し上げ要因となる。ただし、日本で輸出管理規制が強化されれば、中国での半導体製造装置などの販売額が落ち込み、日本の生産指数が下押しされるリスクには注意が必要だ。

自動車工業では、生産体制の正常化で、今後は挽回生産が期待される。トヨタ自動車は、台風で稼働停止していた期間の生産は休日を振り替えて対応する方針としており¹、9月以降の生産指数の押し上げ要因となろう。また、認証不正問題の影響も緩和に向かっている。トヨタ自動車は、対象3車種について9月4日より3カ月ぶりに生産を再開した²。ただし、ダイハツ工業は、認証不正の影響で新型車などの開発を停止していたことを背景に、10月末より複数車種の生産を停止するという。一部車種は生産再開まで数カ月かかる可能性もあるといい、影響には注意が必要だ³。

シリコンサイクルの回復は生産指数の押し上げ要因だ。WSTS（世界半導体市場統計）における7月の世界半導体販売額（3カ月移動平均）は前年比+18.7%と高水準を維持しており⁴、米国などにおいてAI向けの半導体需要が旺盛とみられる。また、半導体製造装置協会によれば、8月の半導体製造装置販売高（3カ月平均）は同+22.0%と8カ月連続で増加した⁵。特に中国での需要は堅調で、日本からの1-8月の輸入額は過去最高を記録した⁶。ただし、米国等による輸出管理規制を警戒して前倒しで購入しているとみられ、将来的にはその反動で需要が減少する可能性が高い。今後、日本で輸出管理規制が強化されれば、中国での半導体製造装置などの販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクがある。

製造工業生産予測調査によると、2024年9月の生産指数は前月比+2.0%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+0.3%）と見込まれている。業種別では11業種中10業種が上昇する見込みだ。輸送機械工業（同+9.2%）では乗用車の生産増が見込まれるほか、汎用・業務用機械工業（同+8.0%）でも増産の予定だ。

10月の生産は前月比+6.1%となる見込みだ。業種別では、11業種中7業種が上昇するとみられている。生産用機械工業（同+33.4%）では半導体製造装置などの増産を見込んでいるほか、輸送機械工業（同+5.9%）なども上昇する見通しだ。

¹ 朝日新聞デジタル「[トヨタの国内工場、生産を再開 台風で停止分、休日を振り替え対応へ](#)」（2024年9月2日）

² 日本経済新聞「[トヨタ不正3車種、4日夜に生産再開 ヤリスクロスなど](#)」（2024年9月5日）

³ NHK「[ダイハツ 10月下旬から複数車種の生産停止 認証不正問題の影響](#)」（2024年8月23日）

⁴ World Semiconductor Trade Statistics “[Historical Billings Report](#)” (July 2024)

⁵ 日本半導体製造装置協会「[2024年8月度販売高（SEAJ速報値）日本製半導体製造装置（3ヶ月平均）](#)」

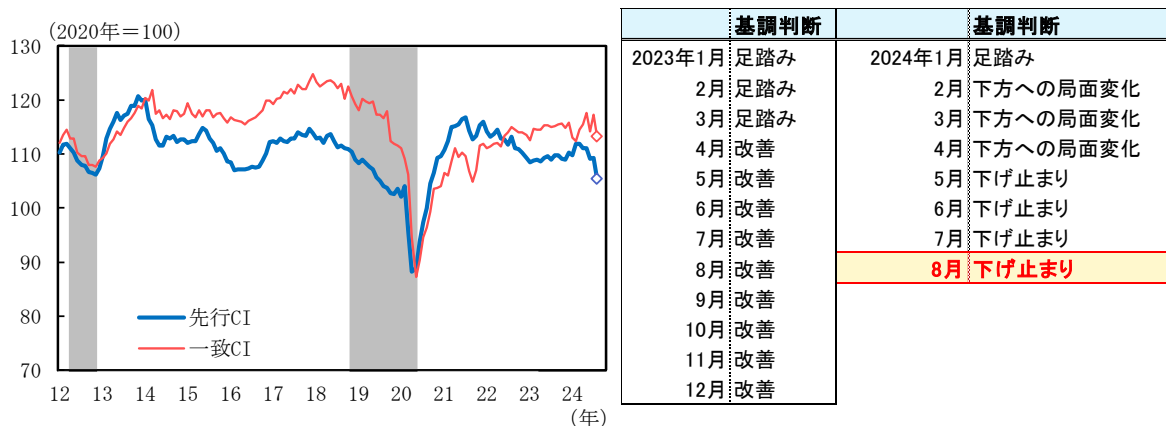
⁶ 中国（香港、マカオを除く）について、HSコード8542に該当する日本からの輸入額（ドル建て）を集計（中華人民共和国海関総署より）。

【8月景気動向指数】先行CI・一致CIはともに低下の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年10月7日に公表予定の8月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲4.0ptの105.3、一致CIが同▲4.1ptの113.1と予想する（**図表4**）。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や東証株価指数、中小企業売上げ見通しDIなどが悪化した。また一致CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財出荷指数や商業販売額（卸売業）（前年同月比）、投資財出荷指数（除輸送機械）などが悪化した。この予測値に基づくと、8月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

先行きの経済は緩やかな改善基調が続くと見ている。4-6月期の実質GDP成長率（2次速報）は前期比年率+2.9%と、自動車の生産体制の正常化や、所得環境の改善などを背景に2四半期ぶりのプラス成長となった⁷。7-9月期の実質GDP成長率も、民需などの回復が続くことで2四半期連続のプラス成長となるとみている。他方で、8月の台風等による影響や、海外経済の悪化による輸出の下振れリスクには注意が必要だ。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



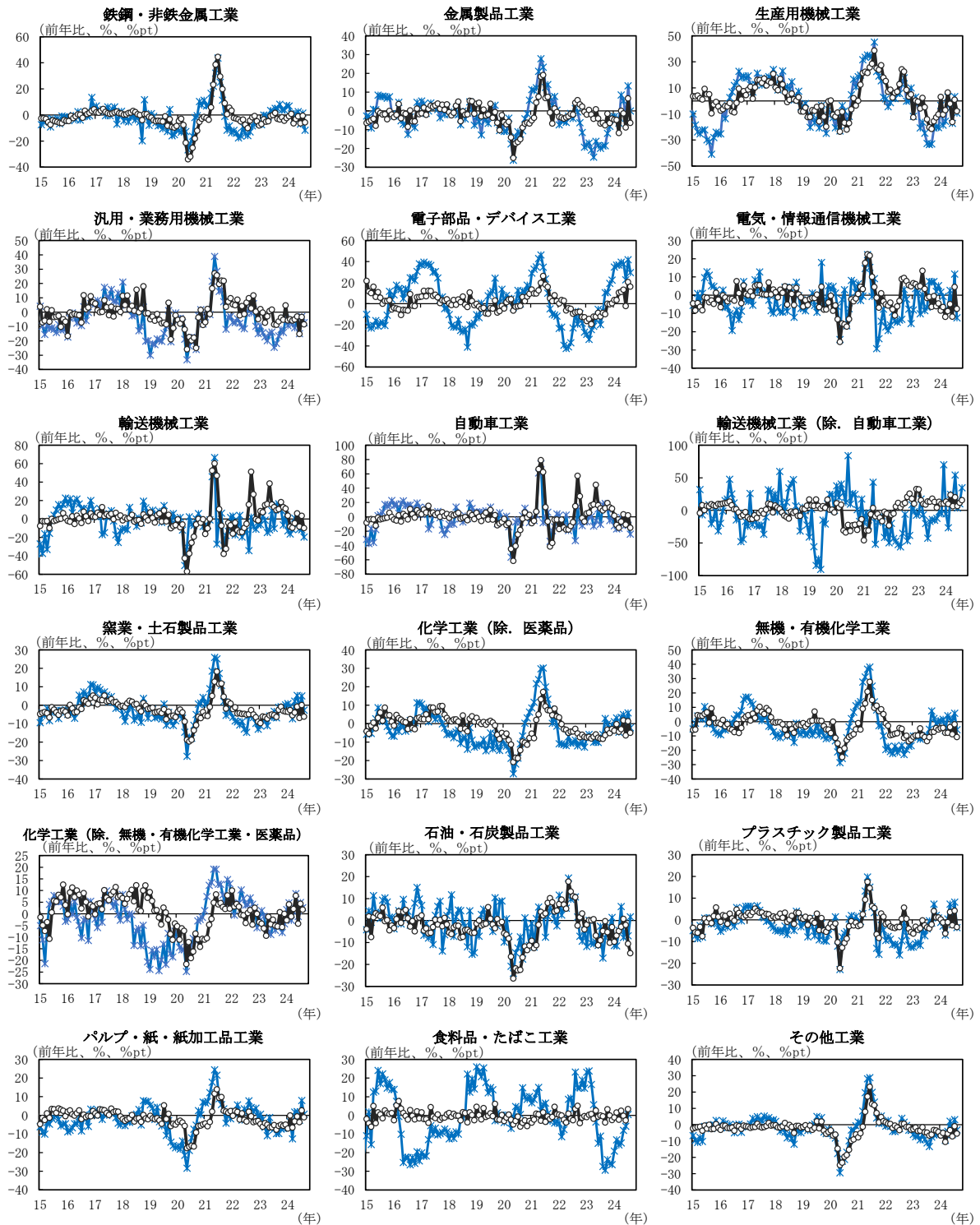
（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドローは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年8月は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

⁷ 詳細は神田慶司・岸川和馬「[2024年4-6月期GDP（2次速報）](#)」（大和総研レポート、2024年9月9日）を参照。

業種別 出荷・在庫バランスと生産



—*— 出荷・在庫バランス —○— 生産

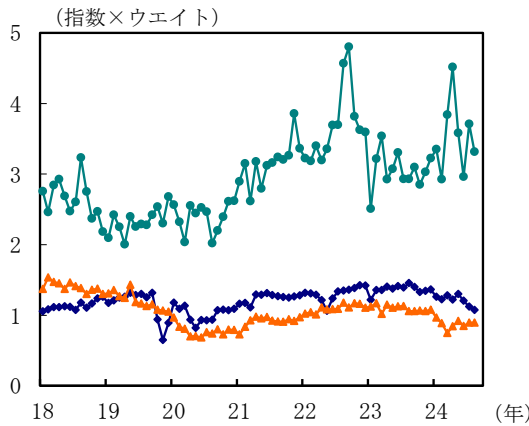
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

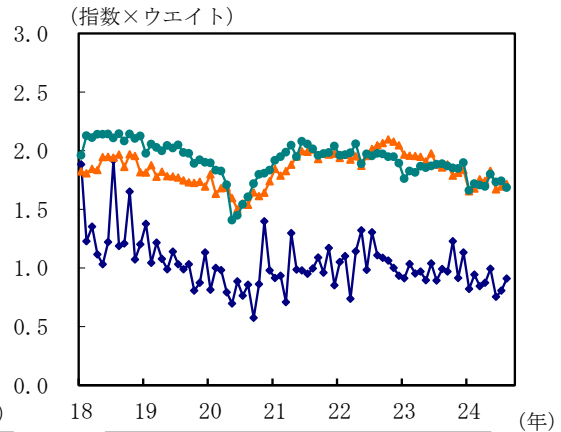
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



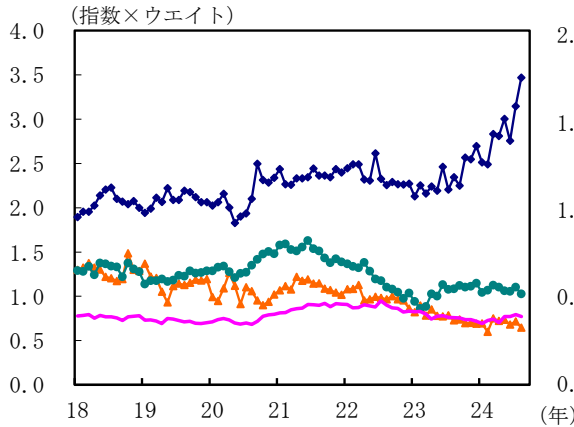
- 建設・鉱山機械
- 金属加工機械
- 半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



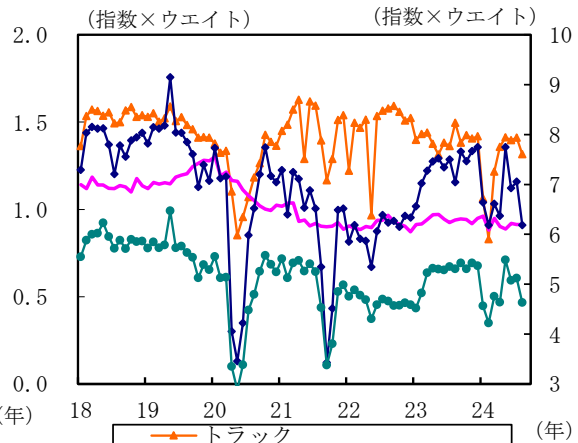
- ボイラ・原動機
- ポンプ・圧縮機器
- 汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



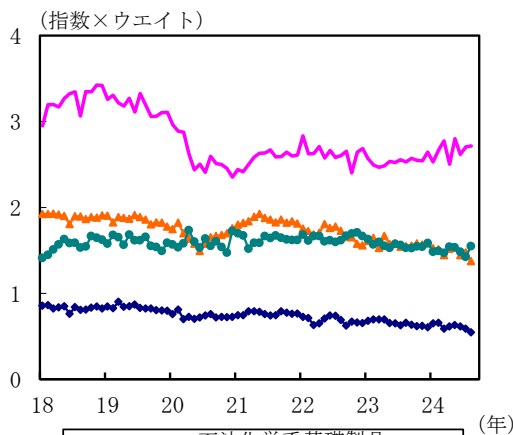
- 集積回路 (IC)
- 電子デバイス
- 電子部品
- 電子回路

輸送機械



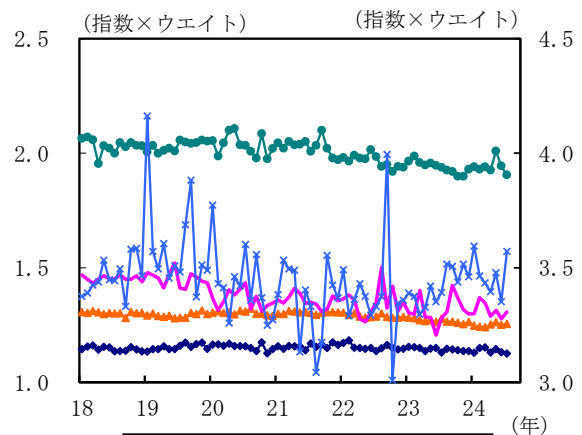
- トラック
- 船舶・同機関
- 乗用車 (右軸)
- 車体・自動車部品 (右軸)

化学



- 石油化学系基礎製品
- プラスチック
- 洗剤・界面活性剤
- 化粧品

食品・たばこ工業



- 肉加工品
- 乳製品
- パン・菓子
- 清涼飲料
- 酒類 (右軸)

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成